桐蔭 攻撃光り4強

ラグビー 全国高校大会

第97回全国高校ラグビー大会の3日目、東大阪市の花園ラグビー場で準々決勝が行われ、神奈川代表の桐蔭学園（関東第2）は大阪の桐蔭学園（大阪第1）を36－14で破り、3大会連続出場の初のベスト4進出を決めた。5日の準決勝で、大阪市の花園ラグビー場で戦う。午後2時15分キ

■関連記事3面に

桐蔭は伝統の強さを発揮し、先手を取る展開。前半7分、ゴール前のラインアウトからモールを押し込んでトライを決めて破竹の勢いを付けると、ペナルティーゴールも加えて10－0の先制点を奪った。

ディフェンス陣の選手層の厚さが光る。今大会30人近く起用している主将のフッカー原田が規定の背番号3を付けるなど、同校初の単独勝の金破る。

第97回全国高校ラグビー大会

◇…準決勝以降…◇

東福岡（福岡）		5日 12:45
東海大仰星（大阪第2）		8日 14:00
大阪桐蔭（大阪第1）		5日 14:15
桐蔭学園（神奈川）		

館沢（中山中出身）攻めて快走

東海大5位

1年前の涙 力に変え

東海大10－14 SAPPORO 海大10－3

第3種郵便物認可

箱根駅伝出身コンビ たすきリレー

箱根路に帰ってきた。中 区2位の快走。終始トップを乱すことなく2人を抜き去り、一気に3位まで順位を押し上げた。

前回の苦い経験を無駄にはしなかった。1年前、箱根の山の厳しさに揺れて悔しい思いをしたメンバーが8人。1年生で5区山上りに挑んだ石川は13位であと一歩に届かなかった。

意識しつつ、冷静に走りを掛けた。1年前、箱根の山の声もあったが、5月の関東学生対校選手権を制すると、6月の日本選手権は準決勝で敗退。「ここで成長させてもらえた。自分はまだ、いい時期だ」と言い切った。

9区の湊谷（右）にたすきを渡す東海大・館沢 ＝戸塚中継所

新たな道を切り開いた1年だった。昨春から1500メートルに挑戦。駅伝チームに在籍しながらのチャレンジを反対する声もあったが、5月の関東学生対校選手権を制すると、6月の日本選手権は準決勝で敗退。「ここで成長させてもらえた。自分はまだ、いい時期だ」と言い切った。

この日も距離走を培った脚力とスピードを生かし、終盤の上り坂で前を走る早大をかわすと、ラストトップでスパートをかけて引き離した。中距離・駅伝に特化してきた証明できた。自信はまた箱根を走っていくんだ。1500メートルに専念したからいいのかもしれない。そんな悩みも吹き飛ばす快走だった。

青学大、神奈川大とともに「3強」と呼ばれたチームは総合5位に終わった。それでも顔ぶれはC区2位鬼塚（6区2位田島）2年生に逸材がそろう。総合優勝を目指して必ずリベンジすると、頼もしくなって戻ってくる。

〈倉住 亮多、写真も〉

初出場 細木が本領

【桐蔭学園（京都代表）＝前半30対7、2本目のトライを決めた桐蔭学園・細木 ＝花園ラグビー場ハイクラウンド（代表撮 久冬すず）

凍えるような寒さと戦ったトライを決めて破竹の勢いを付けたのは大畠 しめた。

指の怪力フロップ、桐蔭学園の細木だ。

ディフェンスの選手層の厚さで戦線離脱したため、徹底的にキックを使わない3人目にエ主身を鍛えた。短期間で30メートル記録を伸ばし、フォワードの中心として起点になって反撃。14－0の前半7分、ゴールから密集をプレーに徹す持ち出した瞬間にギアを上げ、3人のタックルをはじき返しながらトライ。「相手がいろいろ言ってきて楽しかった」と細木。その後、2本目のトライを決めるなど、攻撃の要として活躍した。

「早くスクールに出たくて、うずうずしていたんでしょうね」という厳馬秀之監督（49）の期待に応え、1－0の展開で強さを生かした流れからゲームの流れを手繰り寄せた。

ペンチプレスは175キロ。昨年5月に左ももの肉離れが出たもの、ベンチプレスは175キロ。ゴールから「既実なプレーに徹する主将のフッカー原田が規定の背番号3を付ける」という異例の単独勝の金破る。同校初の単独勝の金破る。

「ボールを持った体を次につなげ、前に進んでいく、それが生れた仕事」と、シンプルな原点を強調する。

ベンチプレスは175キロ。ゴールから「既実なプレーに徹する主将のフッカー原田が規定の背番号3を付ける」という異例の単独勝の金破る。同校初の単独勝の金破る。

（矢部 真太）

柏から大津加入

大津 祐樹

横浜M

柏 27－30 大津 ＝J1柏から加入した大津祐樹。2本目のトライを決めるなど活躍した。

J1柏は昨日、2012年ロンドン五輪4位チーム。強に貢献したFW大津祐樹（19）が、J1柏から加入したと発表した。

大津は08年に柏ユ。11年夏からドイツ2部リーグのフライブルクに移籍し、15シーズンから柏に復帰し、昨年は1－18試合出場して1得点だった。

クラブを通じ「J1でも早くチームの力になれるように頑張りたい」とコメントしている。

青森山田が3回戦敗退

全国高校サッカー

サッカーの全国高校選手権第4日は5日、千葉市のフクダ電子アリーナなどで3回戦を行われ、前回覇者の青森山田が1－0で破った金沢総学館（石川）が、全国優勝経験のある大阪の桜宮（大阪）を2－1で破った。

第96回全国高校サッカー選手権

◇…準々決勝以降…◇

鹿島学園（茨城）	5日	13:05
流通経大柏（千葉）	6日	12:05
日本文理（新潟）	5日	13:05
矢板中央（栃木）	8日	14:05
明秀学園日立（茨城）	5日	13:05
上田西（長野）	6日	14:20
米子北（鳥取）	5日	13:05
前橋育英（群馬）	5日	13:05

◇開始時間 ◇12:05～ ◇14:10～

復路でも巻き返せず

「不思議の負けなし」

13位でシード権を逃した神奈川大・10区校村一＝東京・大手町（吉田 太一写す）

神奈川大13位

大川、秋沢 高校時代の夢実現

神奈川大は7区大川（左）から8区秋沢へ藤沢駅隣高出身コンビがつなぐ ＝平塚中継所

粘り強い走りで8位に食いつなぐ拓は、4年ぶりの復路の9区。神奈川大は、4年ぶりの復路の9区。神奈川大は、4年ぶりの復路の9区。

1区大川、2区秋沢の順で チームを引っ張った。「久しぶりに走ってこれてよかった」と胸をなでおろした。

この時点では、

[illegible]

重圧克服「真の強豪校」

青学大V4

6区で東洋大・金西（右）をかわす青学大・小野田（代表撮影）

序盤 逆転し独走

4連覇への道は選手の序盤でつけた36秒差を通つたり差を広げて来てくれたのがいつも通りの走りができた。今年三大駅伝初出場にと予期組織をマークし、独走態勢を築いた。

今年のチームは、過去3年間で最も強いと言われた。練習、大会そのタイ

7区の林が生じる「思ったより差を広げて来てくれたのがいつも通りの走りができた。今年三大駅伝初出場にと予期組織をマークし、独走態勢を築いた。

今年のチームは、過去3年間で最も強いと言われた。練習、大会そのタイ

4連覇への道は選手の序盤でつけた36秒差を通つたり差を広げて来てくれたのがいつも通りの走りができた。今年三大駅伝初出場にと予期組織をマークし、独走態勢を築いた。

今年のチームは、過去3年間で最も強いと言われた。練習、大会そのタイ

の時間にのレベルに達すれば箱根駅伝で優勝できるかを初めて数字で示した。

けが に苦しんだ林は「夏合宿で使えてるなと感じた。混合率9%、練習量の80%程度言っていたので、80%の状態まで戻ってきたかなと思う。強い選手が抜けていくなかで、誰かが3年生の中で中心的存在になるかなと思っていたのです。

[illegible]

箱根駅伝

第94回東京箱根間往復大学駅伝最終日は3日、箱根町から東京・大手町までの5区間、109.6キロに21チームが参加して復路が行われ、往路2位の青学大が逆転で4年連続4度目の総合優勝を果たした。10時間57分39秒の大会新記録で、2002～05年の駒大以来、史上6校目の4連覇を達成した。

＝本紀1面、関連記事18面に

4分53秒差で東洋大が3年連続の2位、早大が昨年に続く3位となった。4位は日体大、5位は東海大だった。青学大は復路も5時間28分34秒で4連覇した。

往路1位の東洋大から36秒遅れで復路をスタートした青学大は6区の小野田勇次が区間賞の走りでトップを奪い、7区の林憲介が区間新記録の快走で独走態勢を築いた。8区の下田裕太も区間賞を獲得するなど、危なげなく逃げ切った。林は最優秀選手に選ばれた。

総合6位以下は法大、城西大、拓大、帝京大が続き、10位の中央学院大までが来年のシード権を獲得した。10位と14秒差で順大が11位、駒大が12位、神奈川大が13位、2年ぶりに復帰した中大は15位に終わった。

かなスポ ☎045-227-0170 FAX045-227-0167 E-mail: sports@kanagawa-np.co.jp

▽総合成績

①青学大（鈴木、森田、田村、梶谷、竹石、小野田、林、下田、近藤、横田）10時間57分39秒＝大会新
②東洋大 11時間2分32秒
③早大 11時間9分9秒
④日体大 11時間9分28秒
⑤東海大 11時間10分9秒
⑥法大 11時間10分20秒
⑦城西大 11時間12分12秒
⑧拓大 11時間12分32秒
⑨帝京大 11時間13分26秒
⑩中央学院大 11時間14分25秒
⑪順大 11時間14分39秒
⑫駒大 11時間15分13秒
⑬神奈川大 11時間17分8秒
⑭国学院大 11時間18分6秒
⑮中 11時間19分26秒
⑯大東大 11時間22分58秒
⑰東京国際大 11時間22分59秒
⑱山梨学院大 11時間23分24秒
⑲国士舘大 11時間26分42秒
⑳上武大 11時間32分42秒
関東学生連合 11時間40分2秒
（青学大は4年連続4度目の優勝。10位までが来年のシード権獲得。関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

▽復路成績
①青学大 5時間28分34秒
②東洋大 5時間34分3秒
③日体大 5時間35分41秒
④東海大 5時間36分0秒
⑤法大 5時間37分14秒
⑥帝京大 5時間39分39秒
⑦早大 5時間38分44秒
⑧城西大 5時間38分53秒
⑨神奈川大 5時間39分4秒
⑩駒大 5時間39分12秒
⑪拓大 5時間39分27秒
⑫中央学院大 5時間39分42秒
⑬順大 5時間40分45秒
⑭国学院大 5時間41分8秒
⑮東京国際大 5時間41分14秒
⑯大東大 5時間43分20秒
⑰国士舘大 5時間45分4秒
⑱中 5時間45分8秒
⑲山梨学院大 5時間45分17秒
⑳上武大 5時間50分20秒
関東学生連合 5時間50分42秒
（関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

【区間1位記録】
▽6区（20.8キロ）
小野田勇次（青学大）58分3秒
▽7区（21.3キロ）
林憲介（青学大）1時間2分16秒＝区間新
▽8区（21.4キロ）
下田裕太（青学大）1時間4分46秒
▽9区（23.1キロ）
清水颯大（早大）1時間10分39秒
▽10区（23キロ）
小笹椋（東洋大）1時間11分9秒

【青学大区間記録】

区間	選手	名前	記録	区間順位
6区	小野田	勇次③	58分3秒	1位
7区	林	憲介③	1時間2分16秒	1位
8区	下田	裕太④	1時間4分46秒	1位
9区	近藤	修一郎④	1時間11分51秒	9位
10区	横田	貴弥③	1時間11分38秒	2位

10区苅田（光明相模原高出身）

笑顔のラストラン

4年ぶりシード奪回

8位でゴールし、喜ぶ拓・10区苅田（吉田 太一写す）

拓 大8位

えていくメンバーが勢いに乗った。

往路は4位の大躍進だったが、転、復路は8区で10位に落ちると厳しい展開に。1年前に間に合わないかもしれないと悔しい思いをしたが、1年生で5区山上りに挑んだ石川は13位であと一歩に届かなかった。

1年時から箱根出場を果たした大川は大幅に出身を集中。小田原から北東に向かって、「7区3区」と呼ばれる区間。

[illegible]

日体大4位

地道につなぎ前進

走り、8位でアンカーの中川を託した。

3位の東海大までは今年以法大東洋大を抜き去り、最後は3位争い。「早稲田にも追いたいけど、ベー人、渡辺雄太監督55）はうちは別強い選手はいないなかった。なるべく勝ちたい」と区間3位の結果を残める人はいないだろう。

区間賞を取った選手は6区の小野田勇次（青学大）。5位の法大から5人抜きの快走。7区の林憲介（青学大）は「今年の2年生ベースだ」と自信を深める。それぞれ区間賞を取れるくらいの力を付けてくれた。勝ちたい、という気持ちを前面に出した。

半原大（愛川町）3年時に陸上を始め、箱根に憧れる。大学卒業後は競技を続けた。

[illegible]

駒 大12位

【駒大区間記録】

区	選手	名前	記録	区間順位
6区	中西	亮貴④	1時間0分46秒	14位
7区	工藤	有生④	1時間7分7秒	14位
8区	白鳥	徹也③	1時間8分33秒	13位
9区	堀合	大輔③	1時間10分47秒	12位
10区	伊勢	翔吾③	1時間11分59秒	12位

中 大15位

【中大区間記録】

区	選手	名前	記録	区間順位
6区	鳳凰	拓②②	1時間1分21秒	13位
7区	安永	直斗②	1時間7分11秒	13位
8区	神崎	裕③	1時間8分25秒	12位
9区	池田	勇伍④	1時間14分7秒	14位
10区	竹内	大地④	1時間14分4秒	13位

2東洋大位 王者に力負け

2位でゴールする東洋大のアンカー・小笹

6区の2年生の西は、配線で抜き、3分38秒後に出た小野田佳樹差にはられた。ここで4年ぶりの総合優勝は絶望的に。

今西は「悪現で自分が全力を尽くしてしまった」と悔やむ。

[illegible]

3早大位 覇権奪回遠く

4位でゴールした日体大・19区田 太一写す）

最後10区、4位でたすき受け取る。「全力で走ろう。勝負をかけるしかない」と力を込め、後続の日体大に追いつかれながらも、大は追られながらも、

[illegible]

箱根駅伝復路の経過

6区 20.8キロ	2位から出た青学大の小野田が区間記録に迫る快走でトップに立った。東洋大は5秒差の2位に後退。3位は3分46秒差で早大
7区 21.3キロ	青学大の林が区間新記録の走り で2位東洋大との差を3分28秒に広げた。3位は7分50秒差で早大
8区 21.4キロ	青学大の下田が区間賞の力走で東洋大との差を2分15秒に広げた。東海大が6位から3位に浮上
9区 23.1キロ	青学大は近藤が堅実にたすきをつなぎ、2位東洋大との差は5分29秒。3位に東海大。4位に早大が続いた
10区 23.0キロ	青学大は横田が余裕を持って走り切った。東洋大が2位。早大が3位に入った